

頑張る

農業法人

山間部の条件不利地で、過疎・高齢化が著しい福知山市三岳地区の農業を支えていこうと設立した農業生産法人「みたけ農産有限公司」。水稲の農作業受託を中心に、利用権設定した農地で自ら米作りと同市特産の「福知山胡瓜(きゅうり)」の生産に取り組む。

今年8月から、1ターンの新規就農を志す研修生を受け入れる予定で、同地区の活性化の核として期待がかかる。

同地区は市の最北部に位置し、三岳山(標高839㍎)の麓の8集落に約200戸の農家が点在。眼下には約100㍎の棚田が広がる。1981年から府の圃場(ほじょう)整備事業が始まったが、急傾斜で区画

面積は5㍎程度しかない。そのため、農地を保全する目的で水稲の農業受託組合が82年に結成された。

95年には、委託者と受託者が連携・協調して三岳の農地を守ろうとの機運から、140戸で「三岳農作業受託組合」に再編して自前のミニライステンターも整備し、運営してきた。

その後、農家の高齢化に加え有害獣の被害が拡大。このままでは、農地が荒廃するとの危機感から、農地を守るためには法人化による利用権設定で経営基盤の強化が必要と決意。2004年に法人化準備委員会を設置し、J A京都や行政などの支援を受け、21人の出資で05年6月に同社を設立した。

みたけ農産有限公司

福知山市



三岳地区の農地保全に取り組む伊藤さん

山間部の農地を守る

米作り、「福知山胡瓜」生産に力

として販売する。また、田植え10㍎、稲刈り12㍎の農作業受託、約140戸の乾燥調製作業を行う。

後継者確保が課題になる中、8月から府の「担い手養成実践農場事業」を活用して、若い夫婦の研修生を受け入れる予定だ。伊藤さんは、同事業の後見人を務め、地域の空き家も紹介した。農業と地域活性化の担い手として期待が膨らむ。

伊藤さんは「同社は山間部の厳しい条件のなか、農地を守る目的で設立・運営してきた。経営も何とか軌道に乗せることができた。研修生の受け入れで若い人が増えると、地域全体が明るくなり希望が湧いてくる。同社だけでなく、地区全体で研修生を大切に育てていきたい」と話す。

代表取締役社長の伊藤義信さん(79)ら役員5人とパートタイマー11人で経営する。

た6㍎で主食用米と飼料用米の他、今年からJ A京都の勧めで助成金を活用し、安定収入が見込める加工用米の生産に取り組む。

キュウリ作りのベテラである伊藤さんの指導で、特産「福知山胡瓜」20㍎を栽培し同J Aに出荷。地区内の「里の駅みたけ」にも漬物用の原料

現在、利用権設定し

組む。

話0773(33)3135。

▽法人所在地 福知山市字一ノ宮590の2。電話0773(33)3135。